

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	212人
② 数学	213人
③ 英語	213人

5 留意事項

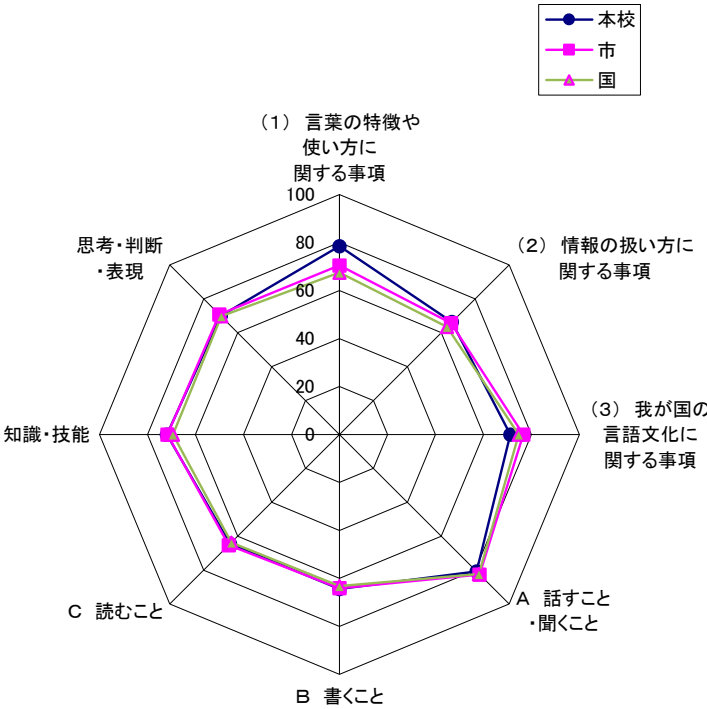
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	78.5	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方に關する事項	66.3	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に關する事項	71.2	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	80.8	82.6	82.2
	B 書くこと	64.4	64.1	63.2
	C 読むこと	64.5	65.3	63.7
観点	知識・技能	71.9	71.7	69.4
	思考・判断・表現	69.9	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

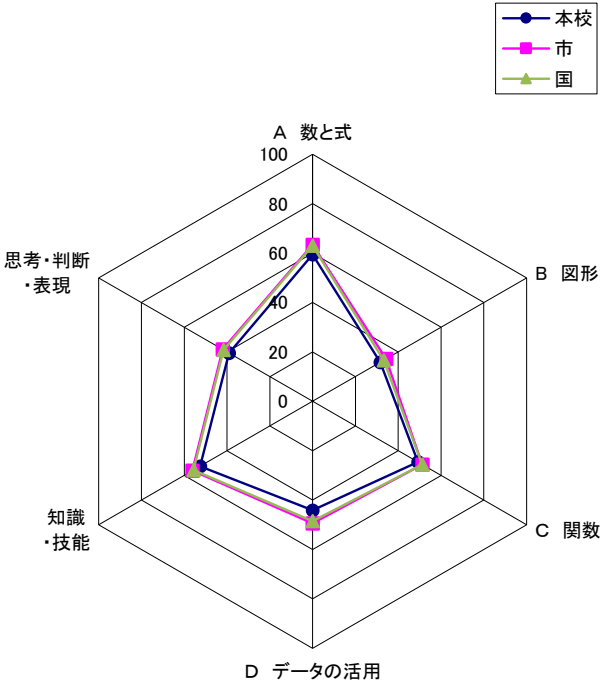
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に關する事項	言葉の特徴や使い方に關する事項については市の平均を8%, 国の平均を11%上回った。 ○「落胆する」の意味として適切なものを選択する問題では91.5%で正答率も高く、市の平均を1.3%, 国の平均を0.4%上回った。漢字を書く(おし量って)問題では65.6%と正答率は低かったが、市の平均を17.2%, 国の平均を21.7%上回った。	・語彙力や漢字力は積み重ねが大切な分野なので、問題に接する機会を増やすとともに、読解や表現活動において知識の向上を図っていく。
(2) 情報の扱い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項については市の平均を0.6%, 国の平均を2.9%上回った。 ○『「判じ絵」とは何か』と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く問題では、全国の平均を5.7ポイント上回った。	今年度は、短答式だったため、無回答率が0ポイントだった。今後は書くことに対する抵抗をさらになくしていき、作文の活動に力を入れていく。
(3) 我が国の言語文化に關する事項	我が国の言語文化に關する事項では、詩の平均を5.4ポイント、国の平均を3.5ポイント下回った。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題において、10ポイント以上下回る結果となった。	古典の基本的な学習において、不十分なところが目立っており、基礎的な事項の反復学習を行い、基礎学力の向上に努めていく。
A 話すこと・聞くこと	話すこと・聞くことについては、市の平均を1.8ポイント、国の平均を1.4ポイント下回った。 ●話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問できるかどうかを見る問題では、国の平均を6.3ポイント下回った。	話の内容を捉える活動として、「話をしっかり聞く」「文章に書かれた内容を丁寧に読む」といった活動を繰り返すことで、理解の精度を上げていく。
B 書くこと	書くことについては、市の平均を0.3ポイント、国の平均を1.2ポイント上回った。 ○『「判じ絵」の解読の面白さ』と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く問題では、正答率は75.5ポイントで国の平均を3.4ポイント上回った。	記述式の問題で、無回答が7.5ポイントいたが、作文の学習も含め、根拠を明確にするために、箇条書きのメモなど、スモールステップから取り組ませていく。
C 読むこと	読むことについては、市の平均を0.8ポイント下回ったが、国の平均は0.8ポイント上回った。 ●現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書くという問題では、市や国の平均は上回っていたが、正答率が51.9ポイントと低く、課題を感じた。	記述式の問題の中で最も無回答率が高く、20ポイントを上回っているため、どんな問題でも「まず解いてみる」「取り組んでみる」という習慣がつくような問題演習を積み重ねていき、抵抗を減らしていく。

宇都宮市立清原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	59.4	63.4	63.0
	B 図形	31.6	34.3	33.2
	C 関数	49.2	51.2	51.2
	D データの活用	44.1	49.4	48.5
観点	知識・技能	52.6	56.2	55.7
	思考・判断・表現	39.1	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

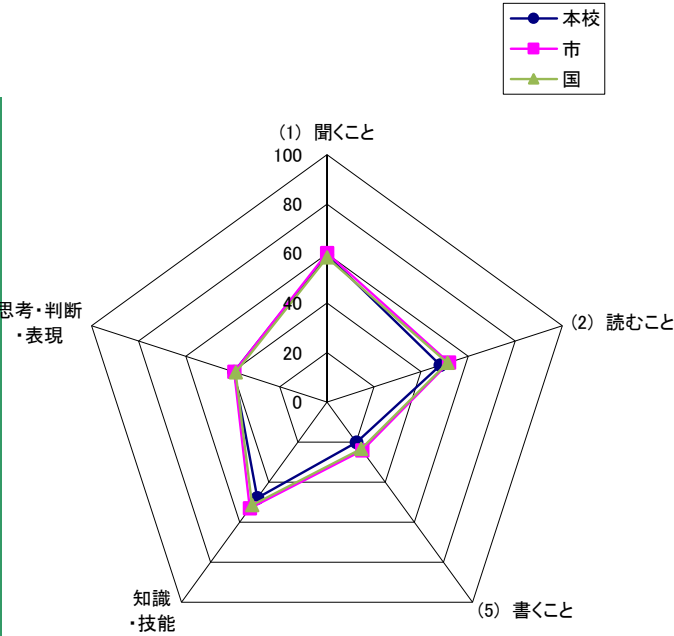
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	「数と式」では市・全国平均正答率を下回っている。 ○計算問題での無回答率が市・全国を下回っており、生徒は自身で答えを導き解答しようとしている。 ●全体的に市・全国と問題の正答率を比べると下回っており、計算ミスや誤った解答の導き方が見られる。	・四則の計算が身に付いていない生徒も見られる。計算の基礎が怪しいため、再度基礎の徹底が必要である。文字式の計算でも同様に、同類項のまとめ方(加減・乗除)の計算方法を復習することが大切である。授業だけでなく、家庭での学習が大切であり、日々数学の復習をしたい。
B 図形	「図形」では市・全国平均正答率を下回っている。 ○証明の問題では、意欲的に解こうとする生徒が多く、無回答率が少ない。問題によっては、正答率も市の正答率を上回っている問題もある。 ●正答率をみると下がってしまうため、証明を最後まで書ききれない生徒が多いと考えられる。証明を自分の言葉で最後まで書けるようになるとさらに良い。	・証明の書き方をしっかりと覚えることや、自分の言葉で証明を書いてみようとする意志を持つことが大切である。証明は多くの問題を解き、自分なりに書き方を学習することが大切であり、書く手順はあるものの自分の言葉で説明する必要がある。定理や定義を覚え、それを使えるようにするために今後も多くの問題を解いていきたい。
C 関数	「関数」では市・全国平均正答率を下回っている。 ○「二人の選手のグラフが直線で表されていること」の前提となっている事柄を選ぶ問題では市や全国を上回っている。読み取りの問題には生徒は意欲的に解こうとする意志が見られる。 ●関数の分野は全体的に見ても大きく差はない。正答率でも他分野より取れている。しかしながら、関数を苦手としている生徒も多く、読み取り以外の問題ではすべて下回っている。	・授業を行っていても、関数の問題に対して苦手意識を持つ生徒が多い。決まりがあるため、理屈が理解できれば問題等も取り組むことができるが、そこに気づくことができない。関数の問題は、「比例・反比例」「1次関数」など各学年で教わったことを問題を解きながら復習し、学ぶことが良い。表・式・グラフの関係を必ずおさえ、易しい問題から解いていく必要がある。
D データの活用	「データの活用」では市・全国平均正答率を下回っている。 ○文章をよく読み、必要なデータを資料から取り出すことはできている。1年時の学びが定着しており、重要語句なども覚えている。 ●複雑な問題や比較などの問題では正答率が下がっている。2年時で学んだ「箱ひげ図」の問題はもう少し学習する必要がある。	・箱ひげ図を利用するメリットとして、「データのばらつきを把握できる」「複数のデータを並べて比較できる」の2つがあげられる。今後は、箱ひげ図を活用する目的やメリットを理解し、読み取る力を付けつつ、学習を進められるようにしていきたい。

宇都宮市立清原中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	59.5	60.2	58.4
	(2) 読むこと	48.2	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	20.2	24.2	23.4
観点	知識・技能	47.9	53.1	51.5
	思考・判断・表現	39.5	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	●市の平均を0.7%下回っている。 ○国の平均を1.1%上回っている。 自動音声案内のアナウンスを聞き、適切な番号を選択する問題では、国の平均を3.3%上回っている。	・対話活動や音読練習を増やしたり教員とALTとのやりとりを積極的に示したりすることで、単語だけでなく文章を聞き取れるようにする。
(2) 読むこと	●市の平均を3.6%、国の平均を3.0%下回っている。 ○ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する問題では、国の平均を2.1%上回っている。	・短い対話文や説明文を読む常活動を取り入れ、英文を読んで概要を読み取る機会を増やす。
(3) 書くこと	●市の平均を4.0%、国の平均を3.2%下回っている。 学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題では、国の平均を0.4%下回っている。 ○メールの英文を依頼する表現に置き換える問題では、国の平均を1.5%上回っている。	・英文で自分の考えを書くことに抵抗感を強く持っている生徒が多い。教科書の新出単語を中心に英単語テストを繰り返し行うことで、基本的な語彙力の向上を図る。

宇都宮市立清原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生はあなたのよいところを認めてくれる」92.9%、「人が困っているときは進んで助けている」93.4%、「人の役に立つ人間になりたい」96.7%、「友人関係に満足」91.5%、「生活の中で幸せな気持ちになる」90.1%と、多くの質問において肯定回答の割合が県及び国の数値を上回る結果となった。コロナ禍から少しずつ学校生活が戻り、様々な活動を実施できるようになり、それらの体験を通して、自己有用感や自己肯定感が高められたと考えられる。今後も平常時から生徒をよく見て、タイミングを逃さない声掛けをする等、積極的なコミュニケーションを継続して、生徒理解と温かな人間関係作りを進めたい。

○「地域行事に参加している」41.1%、「地域社会をよくするために何かしたい」76.4%と肯定割合が県及び国を上回る結果となった。地域イベントの再開や宇都宮学の学習によって地域社会への興味関心が高まっていると考えられる。今後も地域参画や社会貢献の意識を高めていけるよう、ボランティア活動等、積極的に推進したい。

○「総合的な学習の時間では、課題を立て情報収集と整理をし、発表する学習活動に取り組んでいる」の肯定割合は83.9%で、県及び国を上回る結果である。また「地域を外国の人に知ってもらいたい」は74.1%と県及び国と比べて高い肯定回答となった。総合的な学習の時間で行う課題追究学習と学校行事(修学旅行等)や地域行事(LRT開業)等がうまく結びつきその成果が表れたものだと考えられる。

○「学級での話し合い活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができている」は84%、「学級では学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」は86.8%、「道徳では自分の意見を深めたり、グループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」は92.4%と、それぞれ肯定割合が県及び国を上回る結果となった。自分も相手も認められ、安心できる学習環境が確保されていることで、意見交換が活発に行われている状態であると推測できる。今後も誰もが安心して学習できる環境づくりを進めていきたい。

●数学、英語ともに「勉強が好き」、「授業の内容がよくわかる」の肯定割合が県及び国を上回る結果となった。しかし、学習意欲は高くなっているが、実力テスト等の結果を見るとまだまだ学習への取組の工夫が必要と感じる。「分かる」授業の展開と個に応じた学習支援を工夫する等、学習理解が深まるような指導を考えていきたい。

●「読書は好き」は68.4%と県及び国と比べても同等な数値ではあるが、「学校図書室、地域図書館の利用」はかなり低い結果となった。「学ぶ」、「心を育てる」、「情報を得る」等、豊かな学びの資源が整備されている図書室の積極的な活用を考えていきたい。

●「新聞を読む」は8.5%と県及び国と比べるとわずかに高い肯定割合であった。インターネットやTVからの情報収集が主となった現代ではあるが、学校であるからこそ新聞を活用した学習を通して、社会の問題や課題について多面的、多角的に考察し、公正に判断する力等が身に付く機会を設けられるように考えたい。

宇都宮市立清原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・目標に向かってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善	・「自主学习ノート」の運用と適切な学習課題の提示による家庭学習の充実 ・AIDリル、学校図書館の活用 ・チームティーチングによる効果的な指導法の実践	・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答の割合が、県平均を8.6ポイント上回っている。 ・「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の肯定的回答の割合は、県平均を2.2ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・提供された情報や資料に基づいて、自分の考えや意見を表現する問題において、正答率が県平均を下回っているものがあった。	・思考力・判断力・表現力の育成	・思考力や表現力を育成するために、朝の読書を推進し、授業での図書の活用や図書室の積極的な利用を推進する。 ・授業において、「自分の考えを書く活動」と「話し合い活動」を位置付けて、級友との対話を通じて、自らの学びを深めることができる生徒の育成を目指す。